

プロキノ 作品集Ⅳ DVD

近代日本ドキュメンタリー・
アーカイブ No.2

一九二九年二月、プロレタリア文化運動の興隆の中、発足した映画制作団体・プロキノ（日本プロレタリア映画同盟）は、わずか五年の活動期間に当時の社会問題、労働問題を中心に五〇本を超えるドキュメンタリー映画やアニメーション映画を制作・上映した。その作品は労働者から熱烈な支持を受けたが、戦前治安維持法体制下、弾圧を受け、一九三四年に組織は解体する。このたび、戦後に結成された「プロキノを記録する会」が収集した映像をもとに、現存するドキュメンタリー映画六作品をデジタル映像化し刊行する。一九二〇年代末から一九三〇年代前半にかけて、労働運動を主軸とし、学生運動や農民運動をも対象としたドキュメンタリー映画制作の貴重な記録として、近代史研究に必備の映像資料として提供する。



日本ドキュメンタリー映画の源流！

映像記録

六花出版

日本プロレタリア映画同盟制作の映像が、デジタル映像で蘇る。

暗殺された山本宣治の葬儀をはじめ、

女性を含む労働者、学生、農民たちの姿を映し出す、

一九三〇年代日本の社会状況を切り取る貴重映像！

◎監修——牧野守

◎解説——阿部マーク・ノース、雨宮幸明

◎推薦——岩本憲児（早稲田大学名誉教授）

◎定価——一五、〇〇〇円＋税

映画史の枠を超えた 貴重な記録

●
岩本憲児

このたび、残存するプロキノ作品がDVD版で蘇えるという。大いに歓迎したい。というのも、これらは時代の貴重な記録として、関心を寄せる機関または個人が所有できることになり、新たな研究や議論が進展すると思われるからだ。私がプロキノ作品を初めて見たのは、一九八〇年、東京千駄ヶ谷区民会館における残存作品上映会の時だったから、もうかなり前のことになる。当時の私にとっては「幻の記録映画」であり、いずれも短い作品であつたにもかかわらず、強い感銘を受けたことをありありと思い出す。それは戦後の日本、とりわけ高度成長期が抱えた社会的・経済的矛盾がすでにこれら戦

前のプロキノの映像に先駆的に記録されており、「報道し、告発し、闘う映画」として姿を残していたからである。以来、関連する漫画映画や影絵映画も含めて、私は折にふれて再見してきたが、上映の日時や場所など機会は限られており、個人が手軽に見ることは難しかった。近年、若い世代によってもプロキノ映画の再検討が始められているが、DVD版の刊行により、さらに広範な関心呼び起こし、多様な視点や議論が喚起されることだろう。すなわち、これらDVD版は映画史の枠を超えて、昭和初期の社会史、労働運動史、文化史、プロレタリア文化運動など多様な側面を見せてくれるに違いない。

今日、プロキノを 再認識する意味

●
牧野守

二二世紀の映像文化の原点として、一九三〇年代は画期的な意味を持っていた。その当時のアヴァンギャルド運動が、今日にいたる社会変動をもたらしたからである。その後の歴史が実証するように、マスメディアのアナログからデジタルといった技術革新をもたらし、今や誰もが時代を表現し、創造する映像の世紀に到達している。その時代を先取りしたプロキノ運動の実態が、今日まさに解明されようとしている。長年にわたって、わたしはプロキノの運動を調査しその詳細な足跡を辿ってきたが、その起点となったのは、理論誌『現代と思想』（一九七五

年三月号、青木書店刊）に掲載された座談会「プロキノの活動から」である。出席したメンバーはいずれもプロキノ関係者で占められており、唯一の例外者として戦後世代からわたしが参加して発言した。製作された作品の上映や公開の必要性について話したのだ。それから五〇年、半世紀もたつて、やっとその一部とはいえ、目の目をみることになったのである。今や社会状況の変貌によってデジタル（フィルム）アーカイブの資料として研究や教育上、欠かせないことが明らかになってきたといえる。

◎日本プロレタリア映画同盟（プロキノ）関連年譜

（雨宮幸明作成）

1927	トランク劇場映画班、佐々元十がパテ・ベビーでメーデーを単独撮影
1928	佐々元十論文「玩具・武器—撮影機」にて「プロレタリアート解放のための映画の組織的生産」を提案
1929	日本プロレタリア映画同盟結成（同盟第1回大会）。『山本宣治告別式』『山宣渡政労農葬』撮影
1930	プロキノ第2回大会開催。読売講堂にて「プロレタリアの夕」開催され労働者階級の大きな反響を得る
1931	プロキノ第3回大会開催。『第12回東京メーデー』『土地』撮影
1932	プロキノ第4回大会、即時解散。『スポーツ』『全線』撮影。官憲による弾圧が強まり、プロキノメンバーの検挙が増加。映画制作が困難となる
1933	プロキノ第5回大会開催中止
1934	プロキノ第6回大会非合法開催。指導部の検挙により組織的活動が不可能となりプロキノ解散
1955	栗原章子・今村太平により戦後発掘されたプロキノ現存作品が関係者に公開される
1979	プロキノを記録する会（会長・岩崎昶）結成
1980	プロキノを記録する会により千駄ヶ谷区民会館にて現存6作品が一般公開される
1981	プロキノを記録する会編『昭和初期左翼映画雑誌』刊行



土地

4

1931年

1931年、プロキノは「映画運動の基礎を工場・農村に置く」方針を決定し、当時の日本で頻発していた農村小作争議を主題に映画制作を行った。本作品は戦前の富山県で発生した大沢野村小作争議に取材し、小作農民の団結と、農地を奪おうとする土地会社、小作農民との共闘を模索する工場労働者たちの姿を、セミ・ドキュメンタリーとして描いている。現存作品では作品の半分が消失しているが、戦前小作争議を伝える重要な作品である。 脚本／演出・高周吉。撮影・岡秀雄(8分)



山本宣治告別式

1

1929年

1929年3月5日、治安維持法に反対していた労農党代議士、山本宣治が東京の宿泊先の旅館で暗殺された。8日の東京での山本宣治の告別式に取材し、東京帝大仏教会館へと運ばれる棺を官憲監視のなか撮影することに成功した本作品は、『山宣渡政労農葬』と共に初期プロキノの代表作となった。DVD収録にあたり、冒頭と末尾が異なる、大原社会問題研究所所蔵の映像も併せて特別収録する。

撮影・岡田桑三。日本プロレタリア映画同盟東京支部制作(2分)



スポーツ

5

1932年

プロキノ指導のもと、早稲田大学映画サークルが中心となって制作された映画作品。1932年早稲田大学アートオリンピック芸術祭で上映された。大学におけるスポーツ教育の不備、一般学生への運動設備開放を訴えた作品である。当時のプロキノが所属したコップ(プロレタリア文化連盟)によるサークル運動とも関係が深い作品である。早稲田大学アートオリンピック実行委員会制作。

プロキノ東京支部指導(6分)



山宣渡政労農葬

2

1929年

1929年3月9日、東京で告別式を終えた山本宣治の遺骨は、郷里である京都・宇治へと帰還した。当時設立したばかりのプロキノは、京都での山本宣治の葬儀を撮影した。盟友、河上肇の姿をはじめ、様々な角度から山本宣治を追悼する人々をプロキノの組織的なカメラ・ワークが映し出す。プロキノの映画制作・上映活動の基礎を作り上げた初期代表作。

日本プロレタリア映画同盟京都支部制作(12分)



全線

6

1932年

1932年における東京市電・市バス争議に取材したプロキノ後期の代表作。争議を主導した東京交通労働組合の活動や、ストライキを切り崩す市電局側の工作が、軌道走る市電、市バスの姿とともに描かれる。売上詐取の不当な嫌疑をかける密行制度など、当時の女性労働者をめぐる低劣な労働環境も記録され、冒頭の警官隊と労働者の激しい衝突は、プロキノ作品の中でも特筆すべき迫力を示している。シナリオ／監督・古川良。撮影・岡秀雄／嵐玄海。助監督・松川黎(9分)



第12回東京メーデー

3

1931年

1931年5月、東京・芝公園での第12回東京メーデーを記録した作品。労働者の権利を求めるメーデーを盛り上げようと、多くの人々が意気揚々と行進に参加する様子がプロキノによって撮影された。集合地前での身体検査やメーデーを監視する警官や騎馬隊は、当時の厳格な治安警備を浮き彫りにする。遠方から撮影された終幕の大行進は圧巻であり、労働者への共感が表現されている。

総指揮・岩崎昶。撮影・岡田桑三(7分)

DVD プロキノ作品集

近代日本ドキュメンタリー・アーカイブNo.2

◎概要——DVD 1枚(計45分のDVD／英文字幕付き)＋解説1冊

作品タイトル一覧

1 「山本宣治告別式【プロキノ上映版】*」(1929) プロキノ東京支部

2 「山宣渡政労農葬【プロキノ上映版】」(1929) プロキノ京都支部

3 「第12回東京メーデー」(1931) 岩崎昶総指揮

4 「土地」(1931)

5 「スポーツ」(1932)

早稲田大学アートオリンピック実行委員会／プロキノ東京支部指導

6 「全線」(1932)

*「山本宣治告別式【大原社会問題研究所蔵版】」も特別収録

◎監修——牧野守(日本映画史研究者)

◎解説——阿部マーク・ノーネス
(ミシガン大学教授)

雨宮幸明
(立命館大学大学院研究生)

◎推薦——岩本憲児
(早稲田大学名誉教授)

◎定価——15,000円＋税
ISBN978-4-905421-40-5

◎刊行——2013年9月

■本作品視聴にあたっての注意

- 個人利用者の館外貸出は学術目的であれば許可します。
- 学校の授業教材として利用することを許可します。
- 上映会は、学術目的であれば許可しますが、事前に上映内容を版元まで通知してください。
学術目的以外の場合は、版元にお問い合わせください。
- 複写及び他団体への貸出は不可です。

既刊案内(DVD)

近代日本ドキュメンタリー・アーカイブNo.1

「ファシズムと文化新聞『土曜日』の時代」

——一九三〇年代能勢克男映像作品集

十五年戦争のさなかに刊行された文化新聞『土曜日』の編集者であり、京都消費組合理事長だった能勢克男が、『土曜日』同人たちのピクニック、琵琶湖から京都市内を流れる疎水、京都のバスガール、観光都市としての京都、東京丸の内・浅草の都市文化そして大分県臼杵の石仏群などを撮影、一九三〇年代の日本のさまざまな風景とそこに生きる人々を記録した貴重なドキュメントをデジタル映像でよみがえらせる。

定価〃九、八〇〇円＋税



細谷啓介 編・解説

『上毛愛隣社 幻灯資料』

編集復刻版『上毛孤児院関係資料集成』付録DVD

一八九二年創立の上毛孤児院(現在の上毛愛隣社・群馬県)に遺された幻灯用ガラス原板から、孤児院での生活や北海道農場の様子、支援者の写真、日清・日露戦争を鼓舞する絵画、教訓話など、一九世紀末から一九二〇年代までの上毛孤児院の子どもたちをめぐる状況をあらわす二〇八点を収録。

定価〃五、〇〇〇円＋税

*表示価格はすべて税別。



六花出版

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-42 電話 03-3293-8787 ファクシミリ 03-3293-8788
<http://rikkyopress.wordpress.com/>